

## 令和3年度第2回災害廃棄物対策東北ブロック協議会 議事録

日時	令和4年2月8日(火) 10:00~12:00	場所	オンライン
出席者	東北大学 大学院環境科学研究科 教授 吉岡氏 岩手大学 理工学部システム創成工学科 准教授 大河原氏		
	青森県・中野渡氏、青森市・平井氏、南部町・大羽澤氏、八戸市・小橋氏、岩手県・山口氏、釜石市・松岡氏、宮城県・沼澤氏、仙台市・横田氏、丸森町・宍戸氏、秋田県・眞柄氏、秋田市・渡邊氏、大館市・黒田氏、山形県・新関氏、山形市・六沢氏、福島市・中野氏、郡山市・小野氏 一般社団法人宮城県建設業協会・西村氏、 宮城県解体工事業協同組合・佐藤氏		
	国土交通省 東北地方整備局 技術管理課		桜庭氏
	国土交通省 東北地方整備局 港湾空港部 港湾空港防災・危機管理課 課長補佐		佐藤氏
	陸上自衛隊 東北方面総監部 防衛部防衛課 部外連絡協力班計画幹部 1等陸尉		芦沢氏
	環境省東北地方環境事務所 所長		中山
	環境省東北地方環境事務所 資源循環課長 環境省東北地方環境事務所 資源循環課課長補佐		草刈 菅原
日本エヌ・ユー・エス株式会社		井川、後藤、 村山、山本	
項目			
1. 開会			
2. 開会挨拶			
<p><b>(東北地方環境事務所・中山)</b> 東北地方環境事務所長の中山です。本日は大変お忙しい中ご参加いただきまして、ありがとうございます。今お話がありましたとおり、新型コロナウイルス感染症の関係で本日はウェブ開催とさせていただきます。慣れない環境にフラストレーションがたまるかもしれませんが、ご理解の程お願いいたします。では、第2回災害廃棄物対策東北ブロック協議会の開催に当たりまして私の方から一言ご挨拶申し上げます。</p> <p>昨年も2月13日の福島県沖地震、3月20日の宮城県沖地震、8月には台風9号の大雨と、東北地方でも多くの災害が発生いたしました。この場をお借りして被災地の皆様にお見舞い申し上げます。また対応された自治体の皆様方、それをご支援いただいた自治体の皆様に、この場をお借りして感謝いたします。全国的にも、7月、8月の豪雨災害等で甚大な被害が発生しており、災害廃棄物の迅速かつ適正な処理について事前の備えが非常に重要だと実感しています。本日は、第1回協議会で示した行動計画の改定と、人材育成事業や令和元年の東日本台風の振り返り事業のご報告とともに、来年度事業の予定についてご報告させていただきます。また自衛隊との連携ということで、陸上自衛隊 東北方面総監部 防衛部防衛課 部外連絡協力班計画幹部の芦沢健司様にもご出席いただいております。午後には同じくウェブ開催で災害廃棄物に係るセミナーも実施しますので、こちらも皆様のご出席をお願いいたします。最後になりますが、ウェブ開催ということで慣れない環境でトラブルも懸念されますが、皆様から今後の取組みについてご意見をいただき、有意義な時間がもてますようよろしくお願いいたします。本日は長時間にわたりますが、よろしくお願いいたします。</p>			
3. 日本エヌ・ユー・エス株式会社（以下「JANUS」という）井川より配布資料の確認後、令和3年度本協議会会長である東北大学大学院の吉岡敏明教授により議事を進行した。			
<p><b>(吉岡会長)</b> 東北大学の吉岡でございます。今日の議事の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。先ほど中川東北環境事務所長のお話にありましたように、東北地方でも近年地震の災害が発生しています。この協議会はもともと東日本大震災を契機に各地域ブロックで作られ、これまで地震や豪雨等様々な災害が発生する中、災害廃棄物に対して各地域の特性を生かした議論が展開されています。昨年の11月には釜石で、消防関係の方で災害廃</p>			

棄物に関する取組みに特化した議論も交わされており、災害廃棄物への取組みの重要性をより感じるところです。

それでは議事の方に移りたいと思います。

4. 議題（１）「令和３年度災害廃棄物東北ブロック協議会活動内容」について、JANUS 後藤より説明。  
（吉岡会長）実際に研修会を開催した県の方に、良かった点や課題を伺いたい。

⇒（秋田県・眞柄氏）秋田県ではオンラインの講演形式で行ったが、講師の方々に分かりやすく説明していただけた。しかし、話を聞くだけでは実感がわからない部分もあり、実地形式を希望する意見もあったため、来年度は対面式のワークショップ等を実施できればと考えている。また、来年度は県単独で仮置き場の実地訓練も検討しており、予算を要求している。環境省等とも連携しながら実施したい。

⇒（山形県・新関氏）山形県でも先月ワークショップを開催した。良かった点としては、広島県坂町の西谷課長のお話を聞くことができた点である。また、市町村からのアンケートによると、大規模な災害が起きた場合に市町村と県でどのようにすみ分けして対応するかという点や、県への事務委託について参考になったとの意見であった。後半のタイムライン研修についても、タイムラインの空欄を埋めるという研修の進め方が良かったと考えている。全体として有意義な研修であった。

5. 議題（２）「災害廃棄物対策東北ブロック行動計画改訂（案）」について、東北地方環境事務所草刈より説明。

（吉岡会長）災害支援をする側の人は継続的に長期間支援するわけではなく、入れ替わりがあるとのことだが、その連携はマニュアルでどのように記載されているのか。また、一つの業務に対して複数自治体からの支援を想定しているか、それとも業務ごとに特定の自治体に支援をお願いする想定か。

⇒（東北地方環境事務所・草刈）マニュアルの支援チームの設置に関する内容だが、支援チームは、その時の状況を整理し市町村と協議の上で設置する。その際、支援する側とされる側の要望を東北地方環境事務所が事務局となり取りまとめ、支援チームのメンバーを確定する。支援する側の得手不得手や、時期ごとに必要な支援も異なるため、それらの点も東北地方環境事務所内で情報を共有しながら支援する自治体を募る。

6. 議題（３）「令和３年度 令和元年東日本台風における災害廃棄物処理の振り返り及び災害廃棄物処理計画作成支援等調査業務」について、東北地方環境事務所菅原より説明。

（吉岡会長）災害廃棄物処理計画について、役に立ったという意見がある一方で、もっと実効性のあるものが良かったという意見もあった。それぞれ良かった点と課題を具体的に伺いたい。

⇒（東北地方環境事務所・菅原）良かった点は、発災の際役割分担をすることができた点である。課題は、災害廃棄物処理計画を作ってから年数が経ち見直しがされていない点や、計画が廃棄物部局だけで共有され役所全体に共有されておらず、発災の際他部局の協力が得られず場当たりの対応になった場合があった。一度計画を策定すると見直し等をしない場合が多いが、策定後も実効性の検証を行う必要がある。

⇒（吉岡会長）計画そのものだけでなく、その実行体制づくりも課題である。

⇒（東北地方環境事務所・菅原）環境省でもこれまで、災害廃棄物処理計画策定モデル事業により策定率の向上に向けた取り組みを全国の地方環境事務所で行ってきた。後程資料４で説明するが、令和３年度からは災害廃棄物処理計画の実効性の確保に力点を移している。東北地方は策定率が他地域より低いため、引き続き策定率の向上に努めていきたいが、作って終わりではなく、発災した際に作った計画が機能するか検証する事業も今後モデル事業として展開していくことが重要だと考えている。

7. 議題（４）「令和４年度活動・運営方針」について、東北地方環境事務所菅原より説明。

（青森県・中野渡氏）来年度計画のモデル事業について、行動計画効果検証等業務と災害廃棄物処理計画の基礎資料作成支援は別事業か。また、基礎資料作成支援は３～４件実施予定とのことだが、これは東北全体が対象か。

⇒（東北地方環境事務所・菅原）効果検証業務と資料作成支援は別であるが、東北は策定率が低い

ため計画作成をまずは考えてもらいたい。ただし、その際実効性が確保された計画となることは重要である。今年度は作成支援について宮城県と福島県が対象だったが、各県でまだ作成していない自治体があれば積極的に手を上げていただきたい。

⇒ **(青森県・中野渡氏)** 青森県でも、来年度は作成していない市町村に対して穴埋め形式で作ってもらう等、研修と絡めた取り組みも行いたいと考えている。

**(東北地方環境事務所・菅原)** 今年度の人材育成事業について秋田県では全面オンラインで実施したが、来年新型コロナウイルス流行が落ち着いていれば、全県対面形式で行いたいと考えている。オンラインだとその場の雰囲気伝わりづらい、発言しづらい、参加している実感が乏しいとの意見もいただいている。

**(青森県・中野渡氏)** 資料4の中で、人材育成事業は各2回ずつとの記載があったが、具体的な内容は既に定まっているのか。先ほど他ブロックの紹介の中で、中部ブロックはテーマを絞り災害廃棄物が発生した際の重要な取り組み項目をいくつか分けて研修されていたとのことだが、とても良いと感じた。

⇒ **(東北地方環境事務所・菅原)** 具体的な内容は県や市町村の希望を基に決定するが、例えば1回目は講義、2回目は演習を行う等形式を分けることも可能である。また、災害発生時の初動対応を細分化し、中部のように特定の項目に特化した研修も可能である。例えば仮置き場の設置運営について、1回目に講義で基礎知識をお伝えし、2回目で仮置き場設置管理の演習を行うことも考えられる。

⇒ **(吉岡会長)** 他地域の取組みの中で良いものを取り入れたり、さらに発展させることも可能なので、相談しながら検討いただきたい。

**(吉岡会長)** 他地域より災害廃棄物処理計画策定率が低いということについて、東日本大震災当初は出遅れても仕方なかったが、それから10年以上も経ち他地域でも様々な災害が起こる中で、やはり東北は依然として策定率が低いままである。実効性のある中身は重要だが、それを議論するための土台となる計画を早急に策定いただきたい。市町村のみでは難しい部分もあるので、県のサポートもお願いする。

8. 議題 (5) 「令和3年の災害により「災害報告書」を提出した市町村について」について、東北地方環境事務所菅原より説明。

**(吉岡会長)** 災害査定や仮置き場の周知等には平時からの取組みも重要だと思うが、それについて東北地方環境事務所からコメントを頂きたい。

⇒ **(東北地方環境事務所・菅原)** 以前在籍していた事務所では、日付と仮置き場設置期間だけ空欄にした状態の住民周知用のチラシのひな型を作り演習でお配りした。東北でも同様の試みを検討する。

⇒ **(吉岡会長)** 勝手仮置き場が作られるとその後の処理に支障をきたすため、平時からの周知が重要である。また、災害が起きた時の廃棄物をいかに減らすかという点も平時からの工夫が必要である。通常のごみ処理にも関係するため、それらも計画の中で検討を要する。

**(青森県・中野渡氏)** 来年度秋田県で仮置き場の設置訓練を行うということであったが、具体的な内容を伺いたい。

⇒ **(秋田県・眞柄氏)** まだ予算が決まっておらず具体的にはこれからだが、過去に岡山県で行われた訓練のような内容をイメージしている。東北地方環境事務所の来年度の活動計画の中で2回研修を行うというお話もあったので、そちらとどのような組み合わせで行うか今後相談したい。

⇒ **(東北地方環境事務所・菅原)** 仮置き場設置訓練については、大きな模造紙の上に仮置き場の見取り図を作成し、講師の方が指導するというワークショップ形式でも実施可能である。

#### 10. 閉会挨拶

**(東北地方環境事務所・草刈)** 本日はどうもありがとうございました。ウェブ会議ということで言いたいことを言えない部分もあったかと思いますが、ご参加ありがとうございました。午後はセミナーを行うということで、セミナーの内容も考慮しながら来年度の人材育成事業の内容を考えていただきたい。午後もよろしくおねがいします。

以上